企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局　広告

建設業 なでしこ座談会

安倍政権はアベノミクスの3本の矢のひとつ、成長戦略の中核に「女性が輝く日本の実現」を掲げている。男性の職業というイメージが強い建設業にあっても、それをものともせずに働き、輝きを放つ女性の技術者や技能者は少なくない。とはいえ、女性の建設業就業者数はまだ全体の15%足らずだ。こうした中、国土交通省は建設業団体とともに、女性の技術者や技能者を5年以内に倍増する目標を掲げ、行動計画をまとめた。「もっと女性が活躍できる建設業」にするには何が必要か――。太田昭宏国土交通大臣を囲んで、建設業界の最前線で働く女性たちと志ある女子学生が話し合った。

もっと女性が活躍できる建設業へ

左から、蒲田さん、橋本さん、太田大臣、福吉さん、荒井さん

出席者

国土交通大臣　太田　昭宏 氏

竹中工務店 東京本店勤務（入社8年目）　荒井由美子さん

原田左官工業所勤務（入社10年目）　福吉奈津子さん

鹿島建設 土木設計本部勤務（入社9年目）　橋本　麻未さん

東京工業大学工学部 土木・環境工学科3年在学　蒲田　幸穂さん

5年内に倍増へ 官民挙げて行動

太田 氏

女性のチカラ

――建設業で活躍する女性の力、可能性をどう評価していますか。

太田　建設業というと男性の職業のイメージが強いですが、実際には女性が確かな存在感を示しています。女性には几帳面さやその場の雰囲気を和ませる力を持っている方が多く、現場に非常にいい影響を与えているのです。

今後は、女性がその感性や生活者目線、コミュニケーション能力なども生かして、もっと活躍できるように環境整備に力を入れていかねばなりません。先ごろその一環として、建設業における女性の技術者、技能者を5年内に倍増すべく、「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」を官民挙げて策定しました。

――荒井さんが建設業を志した動機・きっかけを教えてください。

荒井　幼い頃から建物を見るのが大好きで、小学生になると「将来の夢は建築家になること」と作文に書いていました。以来ずっとその夢を追いかけて、大学で建築を専攻し、現在に至っています。

――蒲田さんは将来、土木技術者を目指されているようですね。

蒲田　はい。ものづくりに興味があり、土木という仕事のスケールの大きさ、社会貢献度の高さにひかれ、土木・環境工学科に入学を決めました。素晴らしい教授がそろう今の大学で最先端の技術を学び、将来は建設分野で人々の暮らしをより豊かなものにしていきたいです。

太田　実は、私も大学と大学院で土木を学んだ身です。大学に進学した1964年は東京五輪が開催された年で、まさに高度成長の真っただ中。日本全体が高揚感に包まれていて、人生をかけるなら夢のある仕事に就きたいと考え、土木を専攻しました。まさか自分がいまこういう立場に立つとは思ってもみませんでした（笑い）。

――建設業で働く魅力、やりがいとは。

橋本　魅力は、「確実に形が残る」ことです。そして、それがあまり意識されずに多くの方の役に立っていることでしょうか。縁の下の力持ちですね。

社会貢献度の高い仕事 確実に形が残るのが魅力

橋本さん

女性の活躍する現場を視察する太田大臣

一方、やりがいは、たくさんの人たちと関わり合いながら、一つのものを造り上げることです。現場にいても、設計にいても、自分が造っているという確かな実感が得られる点にも強いやりがいを感じます。以前携わった北海道新幹線のトンネル工事の貫通時に味わった感動はいまだに忘れられません。

福吉　職人には我が道を行くタイプが多いのですが、年齢も経験も異なる職人たちが男女問わず支え合い、一致団結して問題を解決しながら竣工にこぎ着けたときには大きな達成感、やりがいを感じますね。

蒲田さん

蒲田　土木技術者として街づくりに携わりたいと考えています。女性ならではの視点も生かし、構造設計からデザインまで幅広く専門としていきたいです。また、私もいずれは荒井さんと同じように家庭を持ち、仕事と両立させていくのが目標です。私なりに「女性が働きやすい職場」のあり方を考えていこうと思います。

太田　2020年には東京五輪が開催されますが、日本の美しい街並みや安全で快適な建物そのものが外国人の方を魅了する「おもてなし」になると考えています。そういう意味でも建設業は夢と誇りのある素晴らしい仕事です。

技術や経験を持った多くの女性にご活躍いただくことは、建設業の活性化につながります。皆さんのような先駆者の方々に今後も建設業で活躍し続けていただければ心強い限りです。「もっと女性が活躍できる建設業」を共につくり上げていきましょう。

――本日はどうもありがとうございました。

働きやすい環境へ

――皆さんのお話から建設業が魅力的な職業であることは分かりました。では、実際に働く女性にとって働きやすい環境なのでしょうか。

橋本　まだ道半ばですが、着実に改善されつつあります。私がいたトンネル現場でも、男性社員であっても単身赴任の方やお子さんが生まれたばかりの方に対して融通を利かせていました。「もっと女性が活躍できる建設業」になるには、男性も含め職場の皆が密にコミュニケーションを取り合い、一人ひとりの働き方を理解し合える環境づくりが欠かせません。

荒井　近年、働く女性が増えてきたこともあり、トイレや更衣室など施設面は着実に整備されてきました。私自身も女性がいる現場では、女性が働きやすい環境づくりを常に心がけていますが、橋本さんが指摘されたように男性も含めた一人ひとりの意識が変わることこそが重要だと思います。

一人ひとりの意識改革を 周囲の理解と協力不可欠

福吉さん

荒井さん

――女性が仕事を続ける上で最大のネックは育児です。福吉さんは2児の母として家庭と仕事を両立されていますね。

福吉　何とかこなしているというのが本音です。現場によっては朝早かったり、夜遅くなったりで、子どもたちとの時間を取るのが難しくて困っています。幸い、主人は家事を分担してくれますし、会社の社長も自宅から近い現場に派遣してくれるなど配慮してもらって助かっています。周囲の理解と協力があってこそ、女性は家庭と仕事を両立できるのではないでしょうか。

――個人や民間の努力にはおのずと限界があり、やはり行政の後押しが不可欠だと思います。

太田　そうですね。安倍政権ではいま「女性が輝く日本の実現」に向けて様々な形で女性が活躍できる社会づくりを進めている最中です。国交省でも女性技術者の登用を促すモデル工事を実施したり、トイレや更衣室など女性が働きやすい現場の労働環境を整備したり、現場で活躍する女性の表彰を行っています。今後はそうした仕組みをうまく機能させるためにも、女性が働きやすい職場づくりを男性も一緒になって考える雰囲気が醸成されていくことが重要でしょう。

――最後に将来の夢を教えてください。

荒井　皆で女性が仕事と家庭を両立できる建設業を実現していきたいですね。個人的にも仕事と家庭を両立させ、出産後もまた現場に復帰したいと考えているところです。そうしたロールモデルがどんどん増えていくことで、さらに女性が働きやすい環境づくりに弾みがつくと期待しています。

蒲田　土木技術者として街づくりに携わりたいと考えています。女性ならではの視点も生かし、構造設計からデザインまで幅広く専門としていきたいです。また、私もいずれは荒井さんと同じように家庭を持ち、仕事と両立させていくのが目標です。私なりに「女性が働きやすい職場」のあり方を考えていこうと思います。

太田　2020年には東京五輪が開催されますが、日本の美しい街並みや安全で快適な建物そのものが外国人の方を魅了する「おもてなし」になると考えています。そういう意味でも建設業は夢と誇りのある素晴らしい仕事です。

技術や経験を持った多くの女性にご活躍いただくことは、建設業の活性化につながります。皆さんのような先駆者の方々に今後も建設業で活躍し続けていただければ心強い限りです。「もっと女性が活躍できる建設業」を共につくり上げていきましょう。

――本日はどうもありがとうございました。

もっと女性が活躍できる建設業行動計画 10のポイント

女性技術者・技能者の5年以内の倍増を目指す

1. 建設業界を挙げて女性の更なる活躍を歓迎
2. 業界団体や企業による数値目標の設定や、自主的な行動指針等の策定
3. 教育現場（小・中・高・大学等）と連携した建設業の魅力ややりがいの発信
4. トイレや更衣室の設置など、女性も働きやすい現場をハード面で整備
5. 長時間労働の縮減や計画的な休暇取得など、女性も働きやすい現場をソフト面で整備
6. 仕事と家庭の両立のための制度を積極的に導入・活用
7. 女性を登用するモデル工事の実施や、女性を主体とするチームによる施工の好事例の創出や情報発信
8. 女性も活用しやすい教育訓練の充実や、活躍する女性の表彰
9. 総合的なポータルサイトにより情報を一元的に発信
10. 女性の活躍を支える地域ネットワークの活動を支援

建設産業戦略的広報推進協議会